

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第15集

国指定史跡

銚子塚古墳 附 丸山塚古墳

—保存修理事業第3年次概報—

1986. 3

山梨県教育委員会

序

山梨県東八代郡中道町には、山梨県の代表的な前期古墳で、国の史跡に指定された鎌子塚古墳と丸山塚古墳とがありますが、先年この両古墳を含む曾根丘陵の地約40haが、山梨県風土記の丘建設地に選定せられ、現在その建設・整備の基本計画が審議せられて参っておりまます。

その結果、まず上記両古墳の国庫補助による保存修理事業が、1983年度から4カ年計画で施行されることとなり、当埋蔵文化財センターが調査を担当して参りました。本報告書は、第3年次、すなわち1985年度に実施した調査・整備結果の概報ですが、発掘調査の方はこれですべて終了いたしました。

本年度は、鎌子塚・丸山塚両古墳の中間地帯及び鎌子塚古墳の形状、墳丘の段築・葺石・埴輪・周堤等の有無、石室の位置等について調査し、見るべき成果を挙げることができました。例えば、鎌子塚古墳の墳丘規模の復元を試み、およそ全長169m、後円部径92m、同高さ15m、前方部幅68m、同高さ8.5mの推定値を得ることができました。また復元すると口径約51cm、高さ67cm、底径10.4cmほどになる壺形埴輪が出土いたしましたが、その口縁部に三巴と考えられる透し孔が4カ所、胴部に大形の円形と考えられる孔が2カ所、小形の孔が1カ所、さらに底部に焼成前の孔が穿たれるという類例のない形態であることが確認されました。

調査に当たりましては、本年度も引き続き専門の諸先生方のご指導を受けました。また整備事業の方は、これも前年どおり監理を県土木部に依頼し、石和土木事務所に実施していただきました。末筆ながら、ご指導を賜わった諸先生、お世話になった関係機関各位、直接調査に当たられた皆様方に厚く御礼申し上げます。

1986年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

目 次

I 整備事業の概要	1
1. 整備事業の計画と経過	1
2. 整備および調査組織	1
II 周辺地域の地理的・歴史的環境	2
III 昭和60年度事業の概要（第3年次）	5
1. 予算関係	5
2. 考古学調査	5
3. 整備事業関係	13
IV おわりに	13

例　　言

1. 本書は山梨県東八代郡中道町に所在する史跡銚子塚古墳＝丸山塚古墳の国庫補助を受けた保存修理事業計画（4年計画）の第3年次の整備事業の概報である。
2. 本書の執筆は坂本美夫が担当した。
3. 実測図、出土遺物の整理は坂本美夫を中心に行った。
4. 実測図、写真、出土遺物は山梨県埋蔵文化財センターに保管されている。

I 整備事業の概要

1. 整備事業の計画と経過

山梨県東八代郡中道町下曾根に所在する史跡銚子塚古墳・丸山塚古墳の地は、昭和49年度に風土記の丘公園を建設することが構想され、建設省の都市公園「曾根丘陵公園」とあわせて40.4 haの買収が進められており、県教育委員会では史跡部分の買収および整備を行うことになった。史跡部分の買収は昭和52・53年度の2カ年で行い、整備については昭和51年度から風土記の丘建設委員会で、57年度から同整備委員会において基本計画が策定された。その結果昭和58年度から昭和61年度の4カ年にわたって、その保存修理事業が実施されることになった。

昭和58年度

銚子塚古墳・丸山塚古墳の墳丘および周溝の遺存状況確認のための考古学調査、史跡境界杭と説明板の設置、200分の1の航空測量図の作成を行った。

昭和59年度

丸山塚古墳の石室位置および形状、墳丘の段築、周溝の考古学調査を実施し、丸山塚古墳整備実施設計の委託を行った。整備は丸山塚古墳の墳丘整形、芝張、園路整備、石室位置表示、墳丘上排水工事を行った。保存修理事業第1・2年次概報の刊行。

昭和60年度

銚子塚古墳・丸山塚古墳の中間地帯および銚子塚古墳の石室の位置、形状、墳丘の段築、葺石、埴輪、周堤などの考古学調査を実施し、中間地帯および銚子塚古墳の整備実施設計の委託を行った。整備は丸山塚古墳の周溝の砂利敷、排水工事、石室の説明板設置、中間地帯の芝張、植栽、園路整備と休息・照明施設、説明板の設置を行った。保存修理事業第3年次概報の刊行。

昭和61年度

銚子塚古墳の整備として墳丘整備、芝張、園路、葺石、石室表示と周溝部排水工事、砂利敷および周溝部の植栽を行う。

なお、この整備事業の監理は県土木部に依頼し、石和土木事務所において実施している。

2. 整備および調査組織

(1) 整備委員会組織

○会長 井出佐重（文化懇話会々長、県立考古博物館協議会々長）

○委員 植松又次（県文化財保護審議会委員）、斎藤忠（大正大学名誉教授、文化庁文化財保護審議会専門委員）、佐藤八郎（県文化財保護審議会委員）、谷口一夫（日本考古学協会会員）、山本寿々雄（同）、花岡利幸（山梨大学工学部教授）、田畠貞寿（千葉大学園芸学部助教授）、植松春雄（県文化財保護審議会委員）、櫻井健一（中道町長）、土屋清夫（中道町議会議長、昭和58年度）、平川義照（同、昭和59・60年度）、渡辺五六（同、昭和60年度）、長田章（中道町教育長）、清水治雄（中道町文化財審議会長、昭和58年度）、長田新治郎（同、昭和59・60年度）、清水泰夫（県土木部技監、昭和58年度）、小倉 健（同、昭和59・60年度）、河澄 力（県教育次長、昭和58年度）、桜井茂（同、昭和59・60年度）。

○文化庁 加藤允彦

○設計 桑丹青社 (59年度)

○監理 山梨県土木部石と土木事務所 石原春人 (昭和59年度)、中村育男 (昭和60年度)
事務局 県教育庁文化課、県土木部都市計画課

(2) 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査指導 斎藤 忠 大正大学名誉教授 文化庁文化財保護審議会専門委員
山梨県風土記の丘整備委員

大塚初重 明治大学教授 岩崎卓也 筑波大学教授

調査担当者 山梨県埋蔵文化センター文化財主事 坂本美夫

調査参加者 林部光 (奈良大学)、堀之内泉 (同)、鈴木直 (帝京大学)、相楽芳正 (同)、

II 周辺地域の地理的・歴史的環境

甲府盆地南東縁を、北東から南西に向って流れる笛吹川の左岸には、沖積地をはさんで東西約12.5 kmにわたり、標高270 ~ 400 mの曾根丘陵が続いている。丘陵の前線は急傾斜で平地に落ち込み、御坂山地に源を発する七覚川、間門川などの中小河川によって浸食され、幾つかの舌状台地を形成している。この台地の先端に東山 (標高340.2 m) があり、この北東斜面の山麓に所在する古墳を東山古墳群と呼称している。銚子塚古墳 (前方後円墳) はこの一角で丘陵と平地とが接する傾斜変換線上の標高225 m付近に位置している。このほか東山古墳群には銚



第1図 周辺地域の遺跡分布状況



第2図 亀塚古墳、刈山古墳測量図

など、付近に本県における最古で最大級に属する古墳が集中し、さらに東山古墳群の後背地には弥生時代から古墳時代にわたると考えられる多数の方形周溝墓が検出された上の平遺跡、その集落の一部と考えられる立石・宮の上遺跡が存在するなど、この地が甲斐國の成立に中核的役割を果し、かつ中枢地であったことを物語っている。

III 昭和60年度事業の概要（第3年次）

1. 予算関係

60年度保存修理事業は国庫補助対象経費43,843千円で、考古学調査（5,199千円）、保存修理実施設計（6,200千円）、丸山塚古墳周溝の砂利敷、排水工事、石室の説明板設置、中間地帯の造成、芝張、植栽、園路の整備、休息および照明施設、説明板の設置工事（32,444千円）を実施した。なお考古学調査以外の事業については、県土木部に依頼し、石和土木事務所で執行した。

2. 考古学調査

第2年次調査に引き続き昭和60年7月26日より第3年次調査を実施した。その内容は第1に銚子塚古墳と丸山塚古墳とに挟まれた中間地帯における遺構などの有無の確認、第2に銚子塚古墳の石室位置、墳丘、周溝などの形態の確認であった。これらの点を把握するため墳丘および周溝部に、合計17カ所のトレンチを設定して調査を実施した。なお中間地帯については周溝のトレンチを延長して実施した。以下はその概要である。

中間地帯

周溝部に設定したトレンチのうち、特に1・8・9号トレンチを延長して周溝外部の遺構などの有無を調査した。

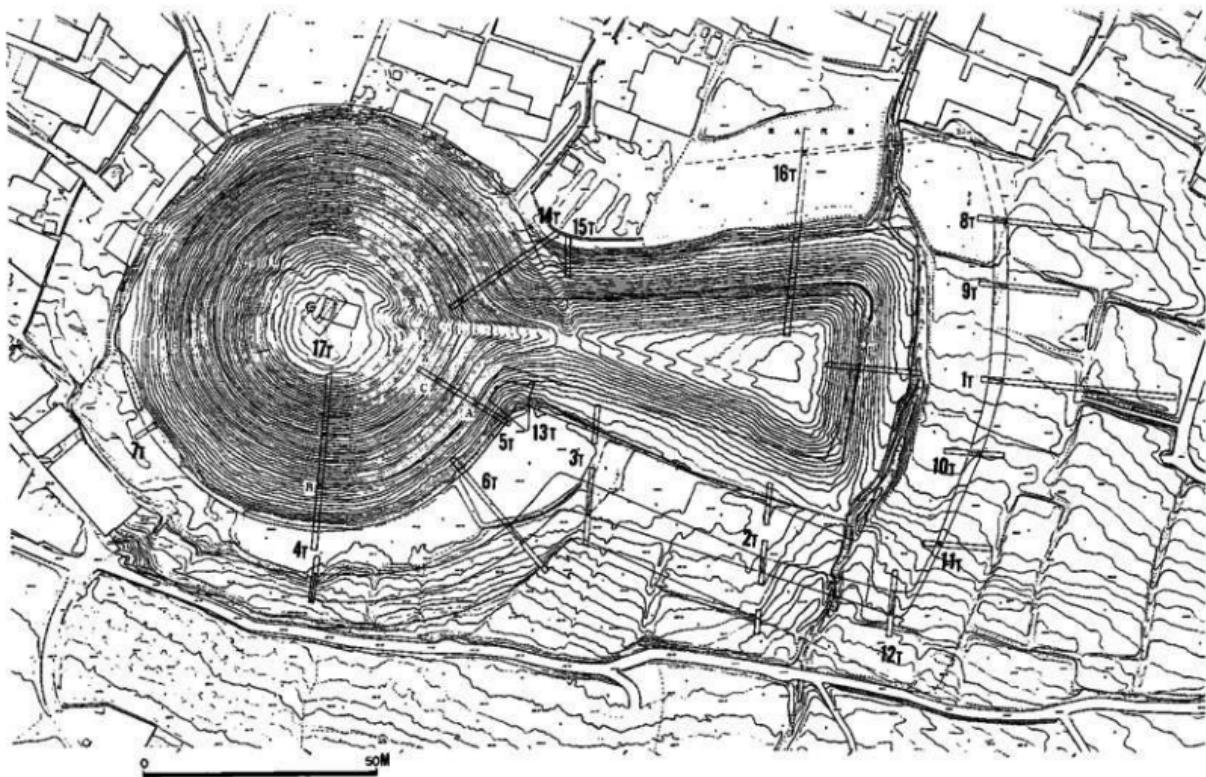
8号トレンチでは30cm前後で地山と考えられる暗褐色疊層に達する。9号トレンチでは約40cmで暗褐色土層ないし疊層に達する。なおこの間に平安時代の遺物包含層が存在する。1号トレンチでは約50cmで地山の黒色土、さらに10cm前後で黄褐色土層に達する。地表面から地山までの厚さは8号から12号トレンチすなわち、北から南に向って深くなっている。

いずれのトレンチでも古墳に伴うと考えられる遺構は確認できなかった。

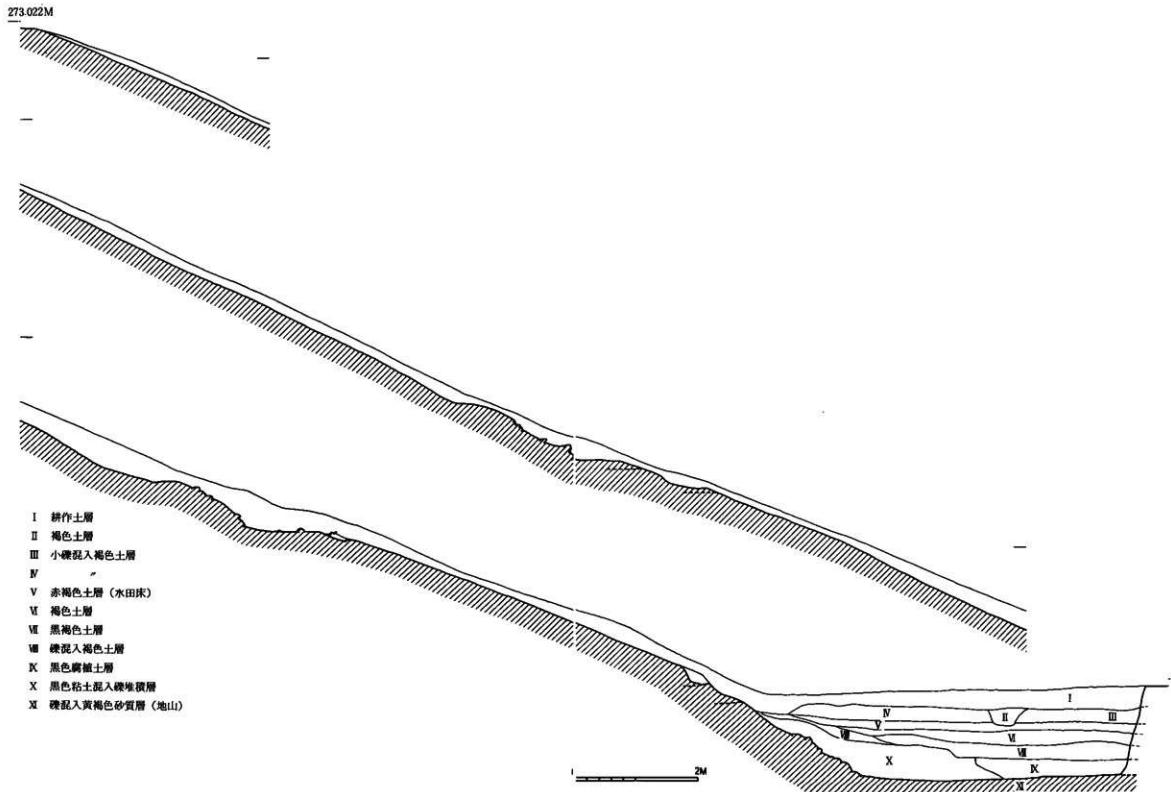
墳丘

4号トレンチの墳端部において直径30cmほどの円疊が2段前後に積まれているのが確認された。この石積みは周溝の底と考えられる疊層ないし砂疊層が墳丘へ立ち上がる変換点に、きっちりと積まれていることから、墳端の礎石と考えられるものである。この様な状況は前方部の第16号トレンチにおいても見られた。他のトレンチにおいては堆積した状況で疊の検出はあったが、礎石と考えられる状況は見られなかった。しかし周溝の底から墳丘へ立ち上がる変換点はすべてのトレンチにおいて確認された。

これらの礎石ないし変換点を墳端として墳丘規模を復元すると、おおよそ全長169m、後円部径92m、同高さ15m、前方部幅68m、同高さ8.5mが推定される。なお墳形は前方後円墳であるが1号トレンチの墳端の状況、あるいは周溝部のトレンチの状況から前方部の中央が剣先



第3図 銚子塚古墳平面図



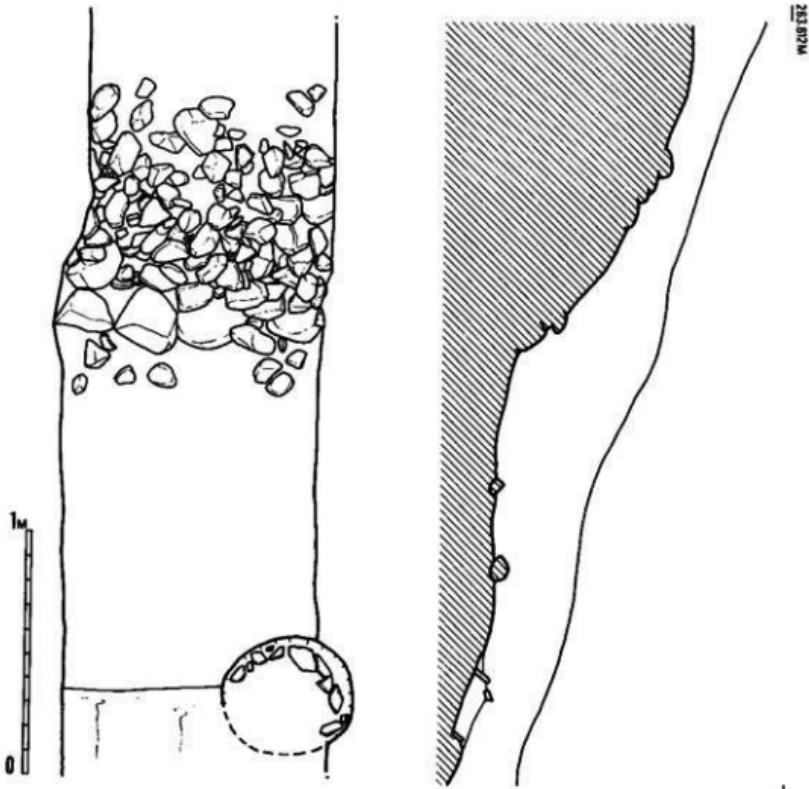
第4図 銚子塚古墳4号トレンチセクション図（東壁）

状に突出する形態のものと考えられる。

墳丘の構築は後円部の4・5・14号トレンチ、前方部の1・16号トレンチなどによって明らかとなつた。後円部のトレンチでは上下2段に葺石と築成面と考えられる平坦面とが検出されたが、前方部は後円部ほど明瞭ではなかった。この結果後円部が3段、前方部が2段の築成であったと考えられる。

葺石は基底部に直径30cm前後の比較的大型の礫を据え、それ以上をやや小振りの礫で葺くものであった。しかし葺石は築成面から上方に2m前後にわたって確認されたにすぎず、それ以上は開墾のためか小振りの礫が散在的に見られたにすぎない。しかし墳端のトレンチに堆積している礫の量からすれば、墳丘全体を覆っていたとみることもできる。

埴輪列については後円部の4・5号トレンチの下段の築成面と考えられる平坦面より、高さ10cmほどの円筒埴輪の基部が、墳丘の盛土と考えられる黄褐色土層に喰い込んだ状況で検出さ



第5図 4号トレンチ葺石、埴輪出土状況（下段）

れたことから、下段の平坦面に埴輪列が回っていたと見られよう。上段の築成面と考えられる平坦面では5号トレンチにおいて壺形埴輪などが検出されたが、基部の樹立は確認できなかつた。

周溝

周溝は各トレンチの調査結果から、おおよそ墳丘の南側で深く北側が浅い状況であった。北側は16号トレンチで0.7m、東側は1号トレンチで1.7m、南側は12号トレンチで3.2m、6号トレンチで1.9m前後で周溝の底となる礫層ないし青灰色粘土層に達する。

周溝は一重であるが、南側においては2段階にわたって削平された可能性を示す地山の変化が検出された。この変化は北側には見られない。このため周溝の幅も14~25m前後となる。また、前方部正面における周溝の前縁は直線とならず中央が外側へ突出する形状を示す。

石室

昭和41年に明治大学考古学研究室によって実測図が製作されている。長軸をN-10°-Eにとる長さ6.5m、幅0.9m、深さ1.2mなどを測る堅穴式石室である。

今回の調査は蓋石の一部を露出するに留めた。この蓋石上面まで現地表から南側で30cm、北側で10cmほどで達する。この間の蓋石上部を栗石、黒色粘土で覆っている。

石室の周囲には幅1.5m前後の控積みが見られ、墓塙はほぼ控積みと同じあたりで東西4.8m、南北9.7mほどの規模と考えられる。

出土遺物

埴輪片、土師器片、木製品などが出土している。

埴輪は墳丘、墳端のトレンチ、特に後者の黒色粘土混入の礫堆積層から集中して出土した。墳丘では4・5号トレンチから壺形埴輪、円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪の大型破片が出土した。

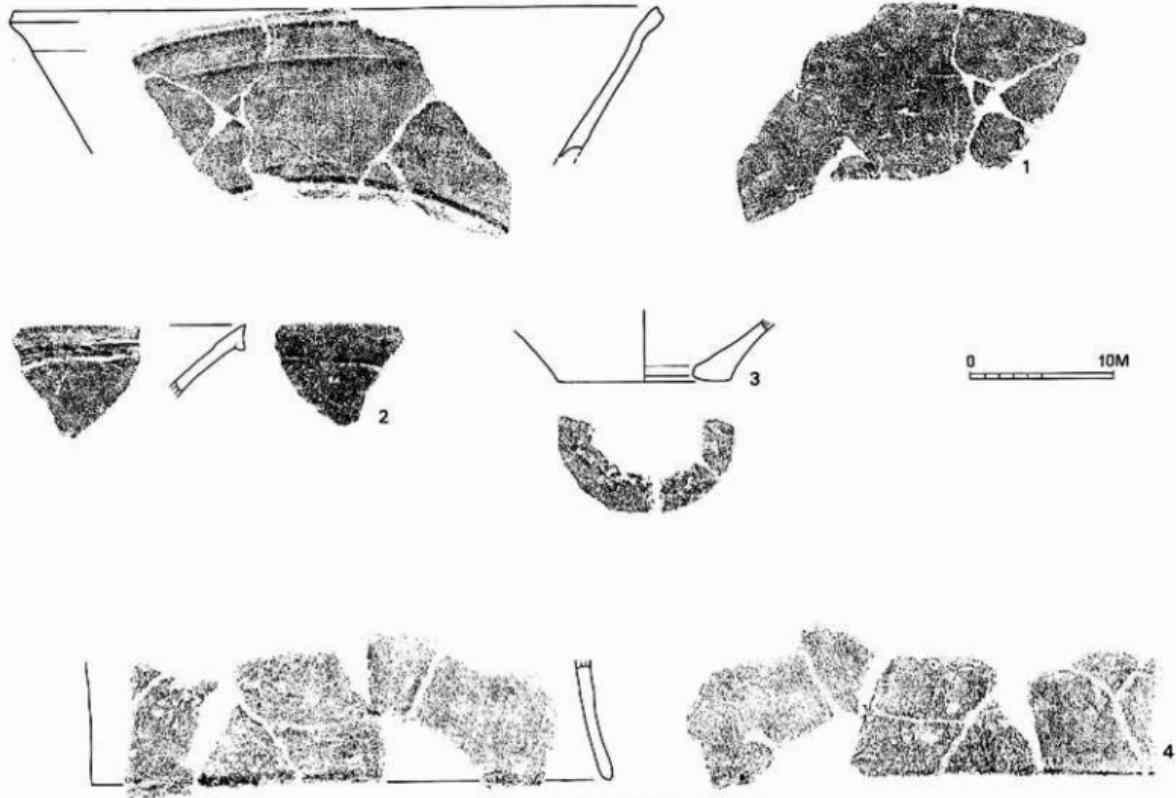
木製品は南側くびれ部の13号トレンチより出土した。周溝の底の直上に堆積した黒色腐植土層から少量の土師器片と共に出土した。

埴輪のうち第6図4は4号トレンチの下段の築成面と考えられる平坦面に樹立した状況で検出された円筒埴輪の基部で、直径40cmなどを測る。同1は円筒埴輪ないし朝顔形円筒埴輪の口縁部であるが、口径約50cmなどを測る。銚子塚古墳の円筒埴輪は、ほぼこれらの大きさが多いようである。

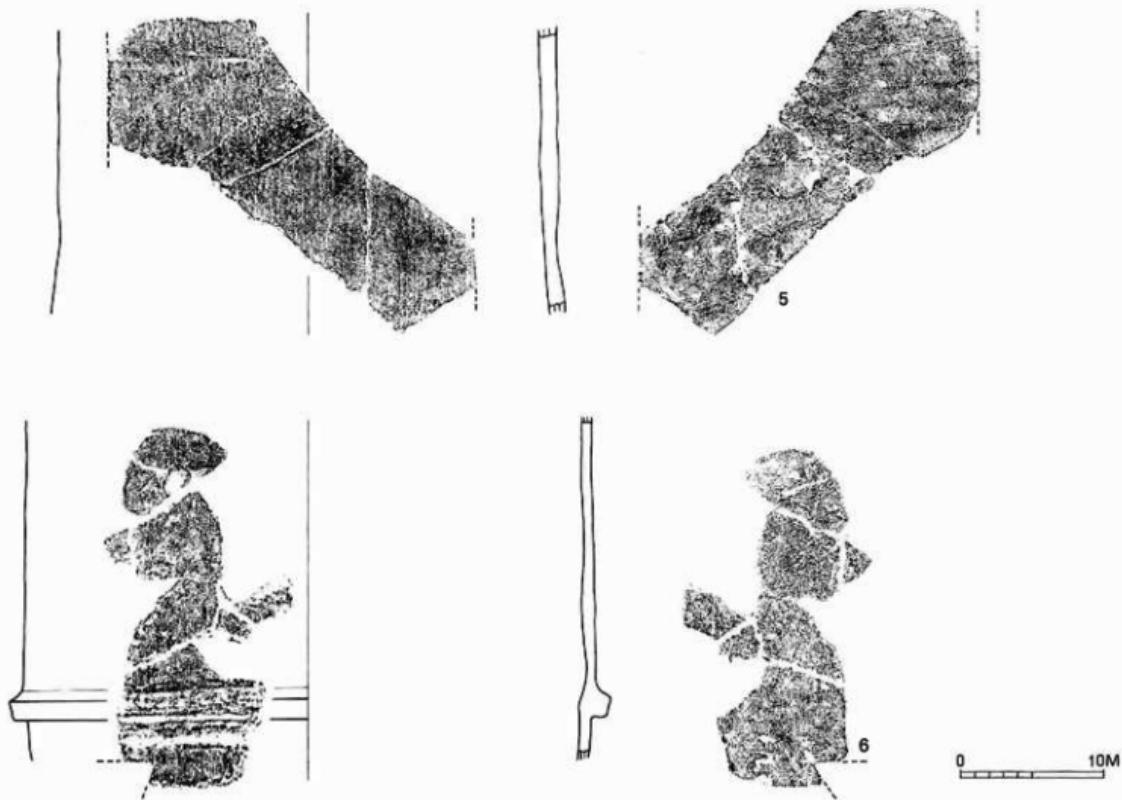
壺形埴輪の破片は数カ所のトレンチより出土している。同3は4号トレンチより出土した底部の破片で、焼成前の孔が穿ってある。5号トレンチの上段の築成面と考えられる平坦面より出土した壺形の埴輪は口径約51cm、高さ67cm、底径10.4cmなどを測る。この口縁部には三巴と考えられる透し孔が4カ所、胴部に大形の円形と考えられる孔が2カ所、小形の孔が1カ所にわたって穿たれて、底部に焼成前の孔が穿たれるという類例の無い形態のものである。

埴輪の透し孔の形態は、これまでに巴形と方形の2種類が確認されていた。今回の調査では第7図6のように、方形や巴形を考えるよりむしろ三角形と考えられるものがあり、このような破片はこれ以外にも散点みられる。

木製品



第6図 銚子塚古墳出土遺物（1）



第7図 銚子塚古墳出土遺物（2）

直徑 17.5 cm、厚さ 1.5 cm ほどで、中心に 1 カ所、その周間に 3 カ所、合計 4 カ所の方形孔を穿つ円盤状の木製品、長さ 28 cm 前後、厚さ 1 cm ほどの板状で一方が小孔を穿った半円形、片方が嘴状に尖った木製品、断面が 3×2.5 cm ほどの長方形を呈する長さ 1.5 m ばかりの木製品などがある。

これらの木製品は埴輪片を多量に含む黒色粘土混入の礫堆積層の下層より出土していることから、この礫堆積層と同時期かそれ以前の時期を推定できるのみで、古墳との直接の関係は不明である。なお木製品を出土した土層より少量の土器片が出土している。この土器片は細片であるが S 字状口縁台付壺の特徴と考えられるハケメ痕の頗著なものであった。

3. 整備事業関係

古墳保存修理実施設計

銚子塚古墳、および銚子塚古墳と丸山塚古墳との中間地帯の実施設計を、第 3 年次調査の結果をもとに風土記の丘整備委員会にはかり、㈱丹青社に実施設計書の作成を委託した。

古墳整備工事概要

丸山塚古墳の周溝に透水管を埋設しての排水工事、また指定地内の排水処理としての排水溝工事。周溝の砂利敷きは周溝の縁に縁石を回し、その中に砂利敷きを実施した。石室の説明板を墳丘の石室表示内に設置した。

中間地帯の造成、園路の整備を実施した。また休息施設としての四阿および照明施設、それに銚子塚古墳、丸山塚古墳を中心とした周辺の説明板を設置した。

丸山塚古墳の周溝周辺および中間地帯においての植栽、芝張を実施した。

IV おわりに

銚子塚古墳の墳形、規模などについて、今回の調査によっておおまかではあるが把握できたと考えている。特に前方部正面の形態、葺石の確認と築成面に回る埴輪列の存在、また壺形埴輪などの出土によって埴輪の組成などが、これまで以上に明確にできた点があげられる。これらの点は後日あらためて丸山塚古墳ともども検討を加え報告することになっている。

銚子塚古墳の調査をもって、保存整備事業に伴う発掘調査はすべて終了した。最後に調査にあたり文化庁、調査指導委員、風土記の丘整備委員、および現地などで直接、間接に指導助言をいただいた多くの先生方に改めて感謝の意を表したい。

銚子塚古墳全景



1号トレンチ全景



4号トレンチ全景



4号トレンチ葺石（上段）



4号トレンチ葺石（下段）



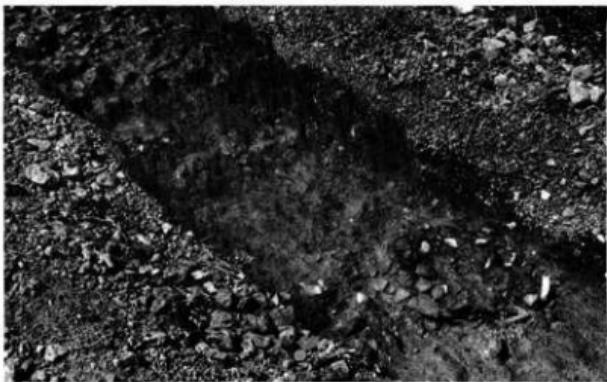
4号トレンチ壁面



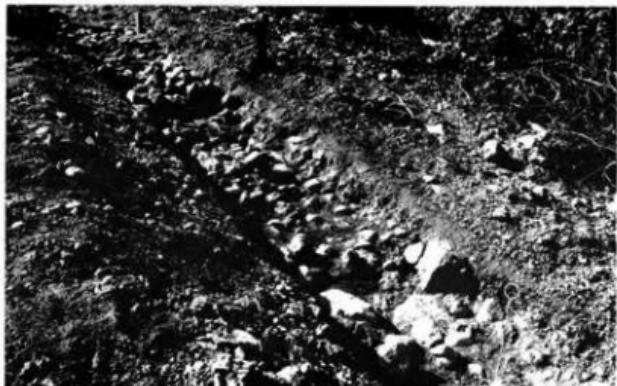
5号トレンチ埴輪出土状況
(上段)



5号トレンチ砂石 (上段)



5号トレンチ埴輪出土状況
(下段)



5号トレンチ草石（下段）



13号トレンチ（くびれ部）



13号トレンチ（くびれ部
周溝）木製品出土状況



14号トレンチ葺石（上段）



14号トレンチ葺石（下段）



14号トレンチ



16号トレンチ墳場



主 体 部



5号トレンチ出土壺形埴輪



丸山塚古墳排水施設



丸山塚古墳周溝砂利敷



丸山塚古墳石室説明板



中間地帶四阿



中間地帶說明板



補 裁

昭和61年3月20日 印刷
昭和61年3月31日 発行

国 指 定 史 跡
銚子塚古墳 附 丸山塚古墳
—保存修理事業第3年次概報—

山梨県埋蔵文化財センター調査報告第15集
発行 山梨県教育委員会
印刷所 合資会社 ヨネヤ印刷

山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第15集
『銚子塚古墳附丸山塚古墳』－保存修理事業第3年次概報－

正誤表

頁	行	誤	正
2	2	設計 柳丹青社 (59年度)	設計 柳丹青社 (59-60年度)
11		(スケール単位) 10M	10 cm
12		(スケール単位) 10M	10 cm
2	16	浸飾され	浸食され